

F1-27

イベント・沿線企画から考える万葉線活性化

The Manyosen Vitalization Plans in Consideration of the Events

有坂 翔¹, 澤 昭友¹, 春山 浩輝¹, 中山晴幸²
 Sho Arisaka¹, Akitomo Sawa¹, Hiroki Haruyama¹, Haruyuki Nakayama²

Abstract: The Manyosen LRT is operating between northern Takaoka city and Imizu city in Toyama. The Hokuriku Shinkansen will be opening to Kanazawa in spring 2015. In the present condition, the city center is north area from JR Takaoka station. However, after the Shinkansen, it will be moving to south area because the new Takaoka station located in south area. It will cause the decreases in the Manyosen passengers. Therefore, in this report, some the Manyosen vitalization methods have been proposed.

1. はじめに

高岡市と射水市を結ぶ LRT の万葉線は、第 3 セクターとして約 11 年前に加越能鉄道から引き継いで発足した。当初赤字であったものの最近ではイベントやアニメキャラクターのラッピング電車を走らせるなどの経営努力の結果、赤字の解消を達成している。しかし、2015 年 3 月に予定されている北陸新幹線の開業は万葉線にどのような影響を及ぼすかが未知数である。懸念されることは、新高岡駅が JR 高岡駅から離れた南側にオープンすることである。万葉線が運行している高岡市北部は、現在行政・経済の中心であるが、それらが南部へ移動する可能性は十分考えられる。それに伴い万葉線沿線が衰退する可能性を否定出来ない。

本報告では、万葉線の活性化のために、以下の 2 つの立場に立った観点から複数のイベント案について検討した。まず、北陸の圏外（主に三大都市圏）の人々に向けたイベント：主に北陸新幹線開業に伴う観光需要の増加を見込むイベント。次に、万葉線沿線地域（富山・石川）の人々へ向けたイベント：万葉線沿線地域の新たな魅力の創出による観光需要の増加を見込むイベントである。



Figure 1. Ikiiki Toyamakan in Yurakucho, Tokyo

2. どのように活性化するか

1) 地元のお祭りを都心でデモンストレーション

高岡市、射水市は 1 年を通して魅力あるお祭りが多いことで有名である。このことから、これらのお祭りのショートバージョンを都心で展開することが可能ではないかと提案する。中心となって動いていただくのは有楽町にある富山県のアンテナショップ“いきいき富山館”を考えている。

このイベントによって、高岡・射水近辺での数多くのお祭りの魅力を東京のみならず、関東一円に居住する方々へのアピールを行い、観光客の増加を狙うことが可能ではないだろうかと考える。

前例として、東京・原宿で東北新幹線全線開業のオープニングキャンペーンとして青森のねぶた祭りが行われた。また、「青森ご当地グルメ屋台村」が開催されたほか、青森県ならではの様々な特産品などの販売など、青森の多彩な魅力をアピールした。



Figure 2. Nebuta festival in Harajuku, Tokyo

2) 食で攻める

富山県には富山ブラックラーメンや白えびのかき揚げ井などの地元では有名でおいしい料理がたくさんある。また海が近いと新鮮な海の幸もある。このよう

に美味しいものがたくさんあるにも関わらず、全国的な知名度はまだまだ低いのが現状である。そういった料理の情報をその存在を知らない人たちにむけて発信し、またイベントを企画することで、食を中心とした地域のアピールを行い、観光客を呼び込むことによって地域の活性化を図るとというのが今回の提案である。



Figure3. Toyama Famous Black Ramen

この提案の具体的な例として B-1 グランプリが挙げられる。B-1 グランプリとは、各地の B 級グルメ（安価で日常的に食べられている庶民的な飲食物のこと）が一堂に会し、その順位を争うイベント。順位を争う以外にも、まだ見ぬ新種の料理を求めて多くの人々が来場し、宣伝効果が大きいイベントである。このイベントにまずは出店して知名度を上げていき、最終的には高岡や射水で B-1 グランプリの開催を目指す。



Figure 4. B-1 grand prix

3) 定期市

万葉線沿線の地区は新幹線の延伸によって、市街地の中心から外れてしまう。そのためこの路線を活性化するには、新幹線開業を見込んだ観光客の誘致だけでなく、沿線住民の集まる機会を定期的に用意し、乗車需要を作り出すことによって、地域そのものを活性化することも重要である。

例として、静岡県富士宮市では毎月 16 日に「十六市」という定期市が開催されている。地元の商店街の店が幹線道路沿いに出店を連ね、毎月大変な盛況を見せて

いる。

月 2 回、日曜日に午前 5 時半から開催され、今年で 33 年目を迎える「高岡朝市」である。地元商店街の出店にとどまらず、地元の小中学生による催しもあり、毎回大変なにぎわいを見せる。この朝市の開催時間は午前 5 時半から 7 時半までのたった 2 時間しかないため、時間を工夫すればさらなる集客を見込むことができる。



Figure 5. Takaoka Morning Market (ads)

このような地域の活力になるようなイベントを沿線で行いそれをつなぎ、もっと地元を利用される、地元へ愛される鉄道を目指すべきである。

3. まとめ

現在、富山県をはじめとする北陸地域では新幹線延伸に向けた対策と準備が進んでいる。この地域には魅力のある観光資源を持つ地域が数多く存在する。万葉線は北陸新幹線と直接接続しないため、旅客数を維持し、新たに獲得するためには、それらの地域に負けない魅力を発信し続けることが重要である。

万葉線沿線の高岡市や射水市にも、知名度こそ低いが魅力のある観光資源は数多く存在する。両市を結び万葉線がこれらの資源を持つ組織や自治体と協力し、沿線の活性化だけでなく地域全体の活性化することが求められている。

4. 参考文献

- [1] 青森県商工会議所:「東北新幹線 もうすぐ“全通”」
<http://www.acci.or.jp/news/1011/news2.htm>
- [2] ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会「B-1 グランプリ公式サイト」
<http://b-1grandprix.com/>